

通信制保護者新聞

かがや ひとみ 「輝く瞳」

第15号 作成者 山下 武宏

バス旅行行われる

さる11月12日のスクーリングでは、恒例の校外研修を行いました。今年度も、全体の9割にあたる大勢の生徒が参加し、紅葉と秋の海が見える「鷺羽山ハイランド」に出かけました。朝からのスクーリングということで心配していましたが、ほとんどの生徒が集合時間を守り、予定の時刻に出発しました。遊園地内では、友人などと乗り物に急ぐ者、到着後すぐに昼食をとる者など、思いおmoiのスタイルで、1日を過ごしました。バスの中では、明石和海教諭によるオカリナ演奏も行われるなど、校外での研修に生徒は満足したようでした。参加した、XXXXXXXXXXさんは、「毎年行き先が違うなど、先生方も工夫してこの研修を企画してくれている。そのことが嬉しいと話した。」

この行事に参加した生徒は、スクーリングの出席の1部にカウントされる。



バス研修の風景

成長を感じて

通信制課程に在籍して、「子どもが変わりました。」と保護者の方からよく聞きます。今回から、子ども変化を特集で紹介します。まず最初は、保護者の方からお聞きしたお話を紹介させていただきます。

「生きてくことで大切なことは何だろう。」と考える時期がありました。子どもが学校にも行かず、家庭でも口数が減ってきている頃に、もしこの言葉の意味を理解しようとしていたらと思うことがあります。

子どもは、全日制高校に入学しましたが、友達にもなじめず学校へ登校できなくなりました。私は、「勉強をなせしつたがらない。」や「学校で何が嫌なのか。」正直子どもの気持ちがわかりませんでした。また、学校へ行かないことを悪いことだと感じ、「どうしてうちの子だけが・・・」と思う日が続きました。

縁あって美作高校の通信制課程にお世話になることができ、何かが変わることを期待していました。教頭先生や担任の先生は、通信制課程では「自学自習」が基本ですが、保護者や家族の方にサポーターになっていただきたいと入学式の時に話されました。「サポーター」？ 正直どんなふうに子どもを応援したらよいかわかりませんでした。担任の先生に聞くと、基本的には自分事はすべて自分で行うようにして欲しいですが、困った時に声をかけてあげてください。という意味の言葉でした。自分にできることは何か考えました。そして、「がんばってるね。」という言葉をかけてやろうという気持ちになりました。アルバイトで疲れた顔をしている時や日曜日に学校へでかける前などにこの言葉をかけました。

入学して半年ぐらいがたった頃でしょうか。子どもが家族が集まる居間でテレビを見たり、「お母さん 何か手伝うことない？」と聞いてくるようになりました。また、「明日レポート締切だから」といって、夕飯を食べてすぐ机に向かうようにもなりました。でも、何が一番嬉しいことは、子どもがいろんなことを尋ねてくれるようになったことです。

今、「生きてくこと」の意味がほんの少し分かったように感じています

地域の若者が寄り添いそして学ぶ場所として、これからも美作高校通信制課程は、頑張っていきたいと思っております。